

事務事業名		学校施設整備事業		☒ 実施計画掲載事業 ☐ 総合戦略掲載事業																									
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																									
	施策名	15 学校教育の充実		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度～)																									
	基本事業名	01 教育環境の充実		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																									
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 02 01 12 03 01 10																									
所属	部課名	教育委員会事務局 学校教育課		事務事業区分																									
	課長名	佐藤 真		A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)																									
	係名	電話	0192-27-3111																										
	担当者	武田 貴子	内線	290																									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 小学校11校、中学校5校の校舎・体育館・プールについて、損耗や機能の低下により使用に耐えない状態になった施設等の修繕を行い、学校環境の改善を図る。 具体的には、各校等からの修繕要望に基づき、緊急度、優先度を勘案し、各種修繕を行うとともに、漏水等の緊急的な修繕を随時実施する。 また、学校統合に伴う第一中学校校舎及び屋内運動場改築工事(R3～4)に向け、設計業務を進める。																													
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計(A)	0																											
	人件費	正規職員従事人数																											
延べ業務時間																													
人件費計(B)		0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)									
前年度実績(前年度に行った主な活動)	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 修繕要望件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>イ 修繕件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>		名称	単位	ア 修繕要望件数	件	イ 修繕件数	件	ウ	
名称	単位									
ア 修繕要望件数	件									
イ 修繕件数	件									
ウ										
学校施設等の修繕 県道整備に伴う末小支障木伐採、遊具撤去等 第一中学校校舎等改築基本設計業務実施										
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)									
学校施設等の修繕	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 学校の施設数</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>キ 児童生徒・教職員数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>		名称	単位	カ 学校の施設数	箇所	キ 児童生徒・教職員数	人	ク	
名称	単位									
カ 学校の施設数	箇所									
キ 児童生徒・教職員数	人									
ク										
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)									
小学校、中学校(校舎、体育館、プール等) 児童・生徒、教職員	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>		名称	単位	サ 修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)	%	シ		ス	
名称	単位									
サ 修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)	%									
シ										
ス										
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)										
学校施設・設備が安全で快適に利用できる。										
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)										
安全で快適な学習環境になる。										

(2) 総事業費・指標等の推移									
		単位	年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(目標)
			27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円		280,344				
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円	39,600	19,900			37,300	93,500
		その他	千円	58,440				6,442	1,300
		一般財源	千円	258,613	32,103	135,985	85,649	44,185	93,608
	人件費	事業費計(A)	千円	356,653	332,347	135,985	85,649	87,927	188,408
		正規職員従事人数	人	3	2	2	2	2	4
		延べ業務時間	時間	4,800	3,600	3,200	2,800	2,400	3,600
		人件費計(B)	千円	19,200	14,400	12,800	11,200	9,600	14,400
		トータルコスト(A)+(B)	千円	375,853	346,747	148,785	96,849	97,527	202,808
⑤活動指標	ア	件		188	249	104	124	105	110
	イ	件		151	179	82	90	70	88
	ウ								
⑥対象指標	カ	箇所		110	110	92	92	92	79
	キ	人		2,570	2,487	2,386	2,313	2,263	2,188
	ク								
⑦成果指標	サ	%		80	72	78.8	72.6	66.7	80
	シ								
	ス								

事務事業ID	0947	事務事業名	学校施設整備事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

「学校教育法第5条 学校の設置者は、その設置する学校を管理し、法令に特別の定のある場合を除いては、その学校の経費を負担する。」による。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

- ・昭和40年代～50年代建築の校舎等が多く、施設の老朽化が進行しており、施設を良好な状態で維持管理していくのは容易ではない状況にある。
- ・文部科学省通達により、平成32年度までに各学校施設の維持管理計画を策定する方向。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

学校、保護者、議会から改善要望が多数ある。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 義務教育の充実に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 小・中学校(義務教育)に係る整備は、市の義務である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 全ての学校施設が対象であり、修繕を行う事業なので、意図も適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 損耗や老朽化が進行するほど改善維持経費は上がる。危険回避、機能維持が当面の優先事項。年次的な維持管理計画は平成32年度までに策定の方向。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 建築後長い年を経た施設が多く、継続的に実施していかなければ教育環境が悪化する。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 学校修繕については、限られた予算を有効活用するため、経済性や効率性を優先した内容で実施している。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 即時対応的な案件が多いこと、老朽化による改善要望が増加していることから、削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 小・中学校(義務教育)に係る整備であることから、受益者負担はありえない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果	
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)	
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等			
老朽化が進行し、施設の数も多く、施設の改築・改善のためには多額の費用が見込まれるが、少子化により児童・生徒数が減少し、空き教室が増加傾向にあることから、改修費用の抑制とともに、よりよい教育施設環境の充実を図るためには、施設の統合・縮小が必要である。			

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	市公共施設等総合管理計画や市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画等を踏まえ、引き続き施設の老朽化、長寿命化に対応していく必要がある。